

## 市内中小企業景況調査結果（平成30年1～3月）

### 全般的に好転するも、来期は再び悪化するものと予想

下 関 商 工 会 議 所

本所では地域の景況・企業の動向を把握するため、四半期ごとに市内の中堅・中小企業50社を対象とした景況調査を実施しています。このたびは第4四半期（平成30年1～3月期）の調査結果を報告します。

- 調査時点

平成30年2月15日

- 調査対象時期

平成30年1～3期状況、平成30年4～6月期見通し

- 調査回答企業数

39社：建設業7社、製造業5社、卸売業8社、小売業8社、サービス業11社（回収率78%）

- D I（DIFFUSION INDEX 景況判断指数）

好転の回答割合から悪化の回答割合を差し引いた数値

#### 【概 況】

市内中小企業の景況をみると、前期（29年10～12月期）では全般的に悪化傾向にあったものの、今期（30年1～3月期）の全産業合計の業況D I（前年同期比）では、全般的に好転している結果となった。

先行きについては、全体としては再び悪化するものと予想している。業種別にみると、建設業では好転するものの、それ以外の業種では悪化するものと予想している。

- 今期（30年1～3月期）の状況（前年同期比）

全産業合計の業況D I（前年同期比）は、前期（29年10～12月期）と比較して23.7ポイント上昇したものの、D Iでは△15.7とマイナス域での推移が続いている。

業種別の業況をみると、サービス業では34.1ポイントの上昇となり、D Iでも+9.1となりプラス域に転じている。製造業でも31.4ポイント上昇しているものの、D Iでは△40.0と悪化のまま推移している。小売業では19.4ポイント、建設業では14.3ポイント、卸売業では10.7ポイントと夫々上昇しているものの、D Iでは夫々△25.0、△28.6、△14.3とマイナス域にとどまっている。

## 〔売 上〕

全産業で見ると、前期（29年10～12月期）と比較して7.0ポイントの低下となり、D Iでは $\Delta 25.6$ とマイナス域が拡大している。

業種別にみると、サービス業では25.0ポイントの上昇となり、D Iでも $\pm 0.0$ まで戻している。小売業でも8.3ポイント上昇しているものの、D Iでは $\Delta 25.0$ にとどまっている。製造業では11.2ポイント低下しD Iでは $\Delta 40.0$ となっている。建設業と卸売業ではD Iで夫々 $\Delta 42.9$ 、 $\Delta 37.5$ となり、前回の $\pm 0.0$ からともに大幅な悪化となっている。

## 〔採 算〕

全産業で見ると前期（29年10～12月期）と比較して、8.2ポイント上昇し、D Iでは $\Delta 24.3$ となっている。

業種別にみると、製造業で50.0ポイントと大幅に上昇し、D Iでも $\pm 0.0$ まで戻している。サービス業でも同様に25.0ポイント上昇し、D Iでも $\pm 0.0$ となっている。小売業では変化なく、D Iも $\Delta 37.5$ とマイナス域での横ばいとなっている。卸売業では3.6ポイントと小幅ながら低下し、D Iは $\Delta 28.6$ となっている。建設業では23.8ポイントと大きく低下し、D Iでも $\Delta 57.1$ とマイナス幅が拡大している。

## 〔資金繰り〕

全産業で見ると前期（29年10～12月期）と比較して、3.1ポイントと小幅ながら上昇しているものの、D Iでは $\Delta 23.1$ とマイナス域での推移となっている。

業種別にみると、建設業では14.3ポイント上昇しているものの、D Iでは $\Delta 28.6$ にとどまっている。卸売業でも12.5ポイント上昇し、D Iでも $\Delta 12.5$ まで戻している。製造業も2.9ポイント上昇しているものの、D Iでは $\Delta 40.0$ となっている。サービス業は変化なくD Iでは $\Delta 9.1$ で横ばい。小売業は15.3ポイント低下し、D Iでも $\Delta 37.5$ となっている。

## ●来期(30年4～6月期)の見通し（前年同期比）

全産業合計の業況D Iは今期（30年1～3月期）と比較して15.0ポイント低下し、D Iでは $\Delta 30.8$ となり再びマイナス幅が拡大するものとみている。

業種別にみると、建設業では28.6ポイントと大幅に上昇し、D Iでも $\pm 0.0$ まで戻る見込み。サービス業では18.2ポイント低下し、D Iでも $\Delta 9.1$ とマイナスに転じる見込み。小売業では12.5ポイント、卸売業では23.3ポイントそれぞれ低下し、D Iではともに $\Delta 37.5$ となっている。製造業では60.0の大幅な低下となり、D Iでも $\Delta 100.0$ とすべての回答企業が悪化するものとみている。

## 〔売 上〕

全産業で見ると、今期（30年1～3月期）と比較して5.2ポイントと僅かながら低下し、D Iでは $\Delta 30.8$ まで悪化する見通しとなっている。

業種別にみると、建設業では14.3ポイント上昇するものの、D Iでは $\Delta 28.6$ にとどまる見込み。サービス業では変化なく、D Iでも $\pm 0.0$ となっている。卸売業でも変化ないものの、D Iでは $\Delta 37.5$ と悪化超のまま推移する見込み。製造業では40.0ポイントと大幅に低下し、D Iでも $\Delta 80.0$ まで悪化する見込みとなっている。

## 〔採 算〕

全産業で見ると、今期（30年1～3月期）と比較して10.8ポイントの低下し、D Iでは△35.1まで悪化する見通しとなっている。

業種別にみると、建設業では14.2ポイント、卸売業では14.3ポイントと夫々上昇しているものの、D Iではともに△42.9とマイナス域で推移する見込み。サービス業では9.1ポイント低下し、D Iでは△9.1とマイナス域に戻っている。小売業では12.5ポイント低下し、D Iでは△50.0とマイナス幅が拡大。製造業では50.0ポイントと大幅に低下しD Iでも△50.0となるもの見込んでいる。

## 〔資金繰り〕

全産業で見ると、今期（30年1～3月期）と比較して変化なく、D Iでは△23.1と引き続きマイナス域での横ばいを見込んでいる。

業種別では、建設業では14.3ポイント上昇し、D Iでは△14.3まで戻す見込み。サービス業、小売業、建設業では変化なく、D Iではサービス業では△9.1となるものの、小売業では△37.5、製造業では△40.0とマイナス幅が大きいまま推移する見込み。卸売業では12.5ポイントの低下となり、D Iでは△37.5まで悪化するものと見込んでいる。

## ●設備投資

設備投資の実施状況を見ると、今期（30年1～3月期）は28.2%の実績となり、前年同期（29年1～3月期：28.6%）や前期（29年10～12月期：27.9%）と比較しても活発な状況が続いている。業種別で見ると、サービス業では45.5%、建設業では42.9%、小売業では25.0%と活発化している。来期についてはサービス業では引き続き活発なまま推移するものの、その他の業種では沈静化するものとみている。

## ●経営上の問題点

建設業では、前回1位の「熟練技術者の確保難」が圏外となり、前回2位の「従業員の確保難」が1位となっている。2位には圏外から「材料価格の上昇」が入り、3位には「下請単価の上昇」と「官公需要の低迷」が入っている。製造業では前回と変わらず「需要の停滞」が1位となり、2位には前回3位の「生産設備の不足・老朽化」が入り、「原材料価格の上昇」が3位に後退している。卸売業では、1位「需要の停滞」、2位「仕入単価の上昇」に変化なく、3位には「新規参入者の増加」が入っている。小売業では、前回3位の「需要の停滞」が1位となり、前回1位の「消費者ニーズの変化への対応」が2位に後退し、3位は前回と同様に「大型店・中型店の進出による競争の激化」となっている。サービス業では、前回2位の「消費者ニーズの変化への対応」が1位となり、2位・3位には夫々圏外から「熟練従業員の確保難」、「店舗施設の狭隘・老朽化」が入っている。

## 業 種 別 D I 値 表 平 成 30 年 1 ～ 3 月 期

	回答企業数	業 況			売 上			採 算			資金繰り			採算(今期経常利益)
		①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	
全 産 業	39	△39.5	△15.8	△30.8	△18.6	△25.6	△30.8	△32.5	△24.3	△35.1	△26.2	△23.1	△23.1	△7.9
建 設 業	7	△42.9	△28.6	0.0	0.0	△42.9	△28.6	△33.3	△57.1	△42.9	△42.9	△28.6	△14.3	△14.3
製 造 業	5	△71.4	△40.0	△100.0	△28.6	△40.0	△80.0	△50.0	0.0	△50.0	△42.9	△40.0	△40.0	△75.0
卸 売 業	8	△25.0	△14.3	△37.5	0.0	△37.5	△37.5	△25.0	△28.6	△42.9	△25.0	△12.5	△25.0	25.0
小 売 業	8	△44.4	△25.0	△37.5	△33.3	△25.0	△37.5	△37.5	△37.5	△50.0	△22.2	△37.5	△37.5	△12.5
サービス業	11	△25.0	9.1	△9.1	△25.0	0.0	0.0	△25.0	0.0	△9.1	△9.1	△9.1	△9.1	0.0

①前々年同期(平成28年10月～12月)と比較した前期(平成29年10月～12月)の状況

②前年同期(平成29年1月～3月)と比較した今期(平成30年1月～3月)の状況

③前年同期(平成29年4月～6月)と比較した来期(平成30年4月～6月)の見通し

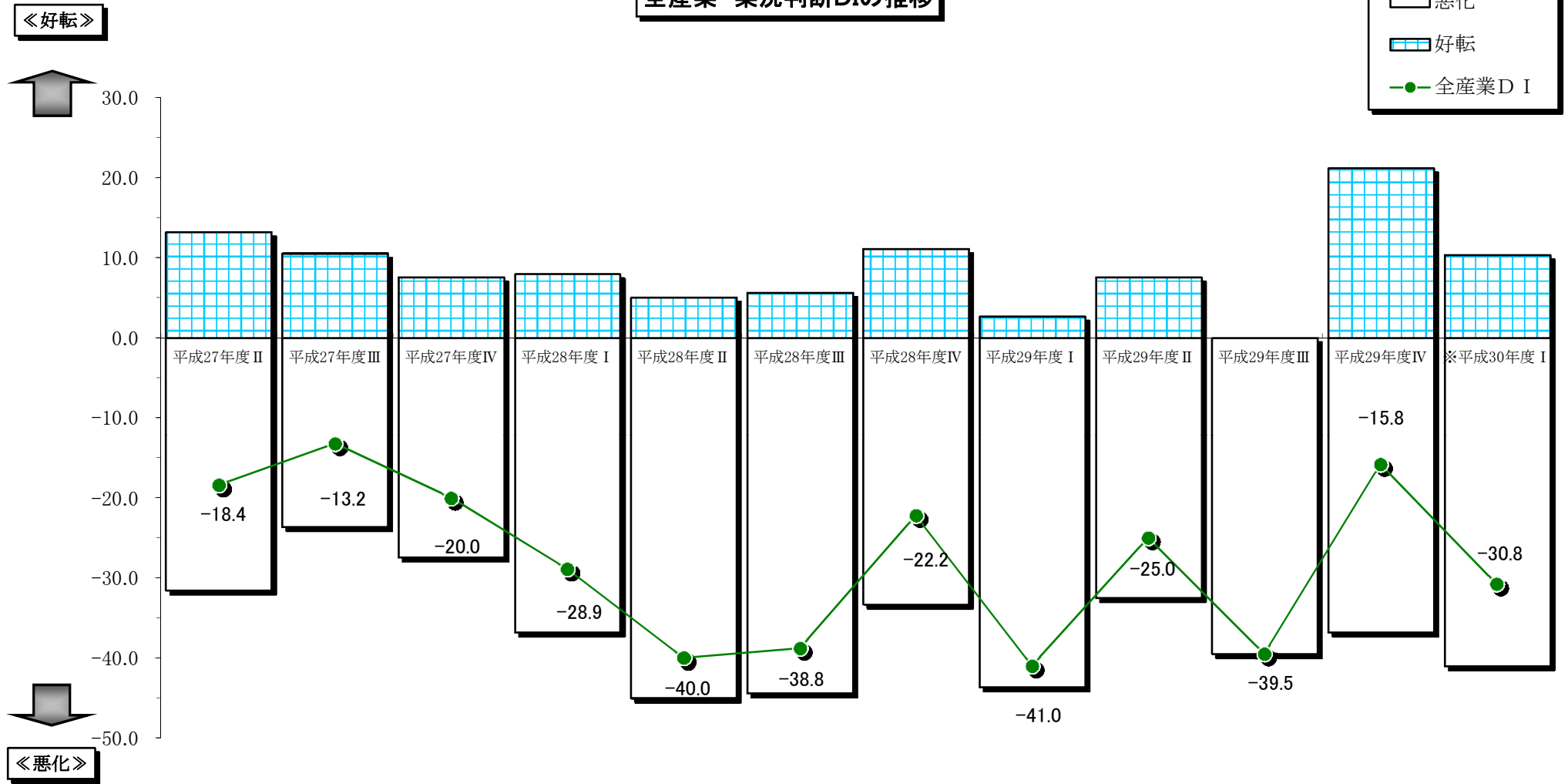
### 直 面 し て い る 経 営 上 の 問 題 点

産 業	1 位	2 位	3 位
建 設 業	従業員の確保難	材料価格の上昇	下請単価の上昇／官公需要の停滞
製 造 業	需要の停滞	生産設備の不足・老朽化	原材料価格の上昇
卸 売 業	需要の停滞	仕入単価の上昇	新規参入業者の増加
小 売 業	需要の停滞	消費者ニーズの変化への対応	大型店・中型店の進出による競争の激化
サービス業	利用者ニーズの変化への対応	熟練従業員の確保難	店舗施設の狭隘・老朽化

設備投資を今期実施した 28.2 %

設備投資を来期計画している 17.9 %

# 全産業 業況判断DIの推移



## 【業況判断DI】

〈好転〉、〈不変〉、〈悪化〉の選択肢のうち、〈好転〉と答えた企業の割合から〈悪化〉と答えた企業の割合を差し引いた値。

I…4～6月期、II…7～9月期、III…10～12月期、IV…1～3月期

※前年度同期（平成29年4～6月）と比較した来期（平成30年4～6月）の見通し